

平成 29 年度 京都市歴史資料館 評議委員会議

日 時 平成 30 年 3 月 9 日(金) 15:00 開会

会 場 同志社 新島会館 2 階 貴賓室

次 第 開会

平成 29 年度事業報告説明

平成 30 年度事業計画説明

歴史資料館運営予算について

その他

京都市歴史資料館 評議委員会議 配布資料

- 資料 1 京都市歴史資料館評議委員名簿
京都市歴史資料館評議委員会議開催要綱
- 資料 2 平成 29 年度事業報告（利用状況添付）
- 資料 3 平成 30 年度事業計画
- 資料 4 京都市歴史資料館歳入・歳出予算・決算額推移表
- 資料 5 平成 28 年度京都市歴史資料館評議委員会議議事録

京 都 市 歴 史 資 料 館 評 議 委 員 名 簿

平成29年4月1日現在

氏 名	役 職 等	専 門 分 野	備 考
荒木 かおり	有限会社川面美術研究所 代表取締役所長	文化財保存修復	
上原 恵美	京都橘大学 名誉教授	文化政策	
片山 真理子	東京芸術大学 美術学部附属古美術研究施設 非常勤講師	朝鮮美術史	
鈴木 久男	京都産業大学 文化学部 教授	歴史考古学	
田端 泰子	京都橘大学 名誉教授	日本中世史・女性史	
野口 実	京都女子大学 名誉教授	日本中世史	
藤野 正弘	市民公募		

(敬称略，50音順)

京都市歴史資料館評議委員会議開催要綱

(平成25年11月15日決定)

(趣旨)

第1条 京都市歴史資料館の展示，講座，調査研究その他の業務について，専門的な見地及び市民の立場から幅広く意見を求めることを目的として，京都市歴史資料館評議委員会議（以下「会議」という。）を開催する。

(委員)

第2条 会議に参加する委員は，学識経験のある者その他市長が適当と認める者のうちから，市長が依頼する。

2 前項の規定により依頼する委員の人数は，7人以内とする。

(任期)

第3条 委員の任期は，2年とする。ただし，補欠の委員の任期は，前任者の残任期間とする。

2 委員は，再任されることができる。

(会議の招集)

第4条 会議は，歴史資料館長（以下「館長」という。）が招集する。

(補則)

第5条 この要綱に定めるもののほか，会議の開催に関し必要な事項は，館長が定める。

附 則

(施行期日)

1 この要綱は，決定の日から施行する。

(経過措置)

2 平成27年3月24日までの間，会議の委員の人数は，第2条第2項の規定にかかわらず，10人とする。

3 この要綱の施行の際現に京都市歴史資料館評議員規則に基づく京都市歴史資料館

評議員である者は、この要綱の施行の日（以下「施行日」という。）に会議の委員として依頼されたものとみなす。この場合において、その依頼されたものとみなされる者の任期は、第3条第1項本文の規定にかかわらず、施行日における京都市歴史資料館評議員としての任期の残任期間とする。

平成29年度事業報告

1 展示

(1) テーマ展「京・地域のくらし2 大原―生活と信仰―」

会期 平成29年2月3日(金)～4月18日(火)

内容 大原は比叡山の北西麓にあたり、住民の生活は天台宗の影響を受けましたが、その名残は今も残っています。古文書、絵図、生活道具などから大原の地勢、社寺の特徴、集落民の生活について紹介しました。

来館 3,403人

(2) 企画展「鷹山ふたたび―祇園祭鷹山復興支援展―」

会期 平成29年4月21日(金)～7月18日(火)

内容 天明の大火などの災害を乗り越えてきた祇園祭の鷹山は、文政9(1826)年の巡行を最後に、以後「休み山」となっています。約200年ぶりの復興に向けて動きだしている祇園祭鷹山の歴史と復興の取組過程を紹介しました。

来館 5,129人

(3) テーマ展「燈心文庫にみる室町時代の諸相」

会期 平成29年7月21日(金)～9月26日(火)

内容 林屋辰三郎氏の文庫(燈心文庫)から、瀬戸内海が物流の大動脈であったことを伝える重要文化財「兵庫北関入船納帳」をはじめ、室町幕府の命令書、戦国大名の書状、一般の人々の暮らしがうかがえる掟書(おきてがき)などの貴重史料を紹介しました。

来館 3,285人

(4) 特別展「岩倉具視の生きた時代」(大政奉還150周年記念プロジェクト)

会期 前期:平成29年9月29日(金)～11月19日(日)

後期:平成29年11月24日(金)～平成30年1月23日(火)

内容 岩倉具視が活躍したのは、ペリー来航から幕末、明治へと大きく揺れ動く時代に活躍した岩倉具視が、激動の時代をどのように生き抜いたのか、政治的な活動に焦点を当てるだけでなく、日常生活の様子や家族とのつながりも紹介しました。

来館 7,028人

(5) テーマ展「江戸時代の京都ニュース―続・大塚コレクション展―」

会期 平成30年1月26日(金)～4月17日(火)

内容 「大塚コレクション」として数多く蒐集(しゅうしゅう)された絵図やかかわら版・錦絵などの摺物はから、江戸時代の人びとが眺めたであろう京都の様子を紹介しています。

来館 2,129人(平成30年2月末時点)

(6) スポット展示

ア 「福王子神社の獅子と狛犬」

会期 平成29年5月18日(木)～7月18日(火)

内容 台座裏に寛永 2 1 (1644) 年の墨書銘があり、仁和寺を護る社であった福王子神社の本殿鎮護のために置かれていた木造の獅子と狛犬を紹介しました

来館 3,761 人

イ 「明治 33 年 釈迦真骨の奉迎行列」

会期 平成 29 年 8 月 3 日 (木) ～9 月 26 日 (火)

内容 1900 (明治 33) 年に、仏教を開いたとされる釈迦 (釈尊, ゴータマ・シッタールタ) の本物とされる遺骨 (真骨) が、シャム国 (現在のタイ王国) から日本に贈られた際の行列を描いた刷物を紹介しました。

来館 2,696 人

ウ 「朝鮮通信使行列図」

会期 平成 29 年 10 月 11 日 (水) ～11 月 9 日 (木)

内容 延享 5 (1748) 年に、徳川家重の 9 代将軍襲職の祝賀のために来日した朝鮮通信使の接待にあたった淀藩士渡辺善右衛門が記録した絵図を紹介しました。

来館 2,171 人

エ 「黎明期のカメラマン堀内信重」

会期 平成 29 年 11 月 30 日 (木) ～平成 30 年 1 月 17 日 (水)

内容 明治 150 年プロジェクト関連の取組として、京都で写真撮影をはじめて生業としたと考えられている堀内信重のガラス乾板や、新たに焼き付けたプリントなどを紹介しました。

来館 3,151 人

オ 「五榜の掲示 京都に残された高札」

会期 平成 30 年 1 月 26 日 (金) ～3 月 7 日 (水)

内容 慶応 4 年 (1868) 3 月、明治新政府が、国民に向けて最初に出した禁止令は「五榜の掲示」と呼ばれ、政治権力の交代を国民に周知するものでした。このうちキリスト教禁止に関する高札などを紹介しました。

来館 2,577 人

カ 「桂女のすがた」

会期 平成 30 年 3 月 8 日 (木) ～4 月 17 日 (火)

内容 桂近辺に住まい、中世から江戸時代末まで独特の風俗を伝承してきた桂女が、祝言を述べる際に身に着けたと考えられる被衣、頭部に巻いた桂包、そして出産や婚姻の儀礼に立ち会った際に使用したと考えられる綿帽子、京都代官所に提出した由緒書の控を紹介しています。

2 講座

(1) 歴史講座

ア 「祇園祭山鉦の復興物語」

- 期日 平成 29 年 6 月 29 日（木）18 時 30 分～ 会場 同志社新島会館
 講師 村上忠喜（京都市歴史資料館）受講者 104 人
- イ 「燈心文庫にみる室町京都とその周縁」
 期日 平成 29 年 8 月 31 日（木）18 時 30 分～ 会場 歴史資料館 1 階展示室
 講師 井上幸治（京都市歴史資料館）受講者 36 人
- ウ 「岩倉具視と明治国家の出発」
 期日 平成 29 年 12 月 8 日（金）18 時 30 分～ 会場 同志社新島会館
 講師 松中博（京都市歴史資料館）受講者 53 人
- エ 「江戸時代の京都ニュース」
 期日 平成 30 年 3 月 9 日（金）18 時 30 分～ 会場 歴史資料館 1 階展示室
 講師 吉住恭子（京都市歴史資料館）
- （2）連続講座「古文書を楽しく読もう！」
- ア 春期講座（5 月） 毎週木曜日・計 4 回
 期日 平成 29 年 5 月 18 日～6 月 8 日
 入門編 13 時～14 時 30 分、基礎編 15 時～16 時 30 分
 会場 同志社新島会館 講師 野地秀俊、井上幸治
 受講者 入門編 45 人、基礎編 47 人
- イ 秋期講座（10 月） 毎週水曜日・計 4 回
 期日 平成 29 年 10 月 4 日～25 日
 入門編 13 時～14 時 30 分、中級編 15 時～16 時 30 分
 会場 同志社新島会館 講師 秋元せき、吉住恭子
 受講者 入門編 46 人、中級編 46 人
- （3）テーマ展「京・地域のくらし 2 大原 ー生活と信仰ー」関連事業
 フィールドワーク「大原の古道を歩く」
 期日 平成 29 年 4 月 15 日（土）
 会場 左京区大原 薬師道（旧街道）
 受講者 34 人
- （4）夏休み親子歴史教室「お地蔵さんと地蔵盆ーまちかどの仏たちー」
 期日 平成 29 年 8 月 19 日（土）13 時 30 分～16 時
 会場 大本山清浄華院 講師 清浄華院の僧侶の方々、村上忠喜
 対象 小学校 4・5・6 年生児童とその保護者 受講者 20 人
 ※文化財保護課と共同開催
- （5）資料研究関連事業
- ア シンポジウム「今村家文書の魅力」
 期日 平成 29 年 11 月 25 日（土）13 時 30 分～16 時 30 分
 会場 京都女子大学附属図書館
 講師 梅田千尋（京都女子大学文学部准教授）
 井岡康時（同志社大学非常勤講師）
 受講者 58 人

イ 歴史ウォーク「むかしの柳原庄を歩く」

期日 平成 29 年 10 月 20 日（金）13 時～16 時

場所 下京区，東山区の本町通周辺

参加者 27 人

（6）京都アスニー・アスニー山科協力講座

ア 学びのフォーラム山科

「平安時代の美の演出 - 女房装束による打出(うちいで) -」

期日 平成 29 年 4 月 19 日（水）

場所 山科アスニー 講師 吉住恭子

イ アスニー京都学講座

「岩倉具視と幕末の政局」

期日 平成 29 年 10 月 28 日（土）

場所 京都アスニー 講師 松中博

3 資料の調査・収集・整理・保管・研究

京都の歴史に関する研究センターとしての役割を担うため，京都市域の歴史に関する古文書などの調査・収集に，大学等の外部研究機関とも連携して進め，収集資料の整理・保管・研究を行っています。

（1）京都造形芸術大学伊達研究室による当館収蔵民具の整理事業

平成29年秋に計5回（各回10名程度参加）による秦家寄託「太子山奇応丸製作用具」の整理・調査を実施。

（2）立命館大学矢野研究室による当館収蔵昭和期の町並み写真のデジタル化事業

京都市都市計画局景観政策課旧蔵・京都市総合企画局国際化推進室旧蔵の景観写真（段ボール箱20箱程度）のデジタル画像化を実施。

4 歴史的公文書の調査・指定

歴史的公文書の調査及び指定，保管を行っています。

5 資料の供用・普及

収集・撮影した古文書などの資料及び所蔵する図書の公開を進めています。また市民の方からの歴史に関する相談に対応しています。

6 「叢書 京都の史料」の刊行

歴史資料館の古文書調査の成果をもとに，史料集の刊行を行っています。第 15 回配本「久多荘文書」を刊行します。

7 研究紀要の刊行

『京都市歴史資料館紀要』第 28 号の作成作業を進めています。

8 史料管理システムの整備

調査・収集した古文書に関する情報管理のため、史料管理システムの整備を進めています。資料館のホームページで一部公開し、これまでに撮影した古文書の写真帳台帳（一覧リスト）及び古文書の解説などの情報も更新しています。

9 情報提供システム「フィールド・ミュージアム京都」の運営

京都市内にある歴史的資源の情報を、情報提供システム「フィールド・ミュージアム京都」として、インターネットで発信しています。項目の追加・修正を中心に、サイトの運営を行っています。

10 チャレンジ体験の受入れ

京都市立梅津中学校の3年生を受け入れ、館員による説明、資料の整理や来館者の展示案内を経験していただきました。（期間：平成29年5月24日（水）～26日（金），2人）

11 博物館実習生の受入

京都市内の各大学からの要請を受け、博物館実習生を受け入れ、館員の指導による実習を実施しました。（期間：平成29年8月22日（火）～26日（土），受講者7人）

12 インターンシップの受入れ

立命館大学から2名のインターンシップを受け入れ、夏休み親子歴史教室の準備などを含めた実習を実施しました。（平成29年8月15日（火）～19日（土））

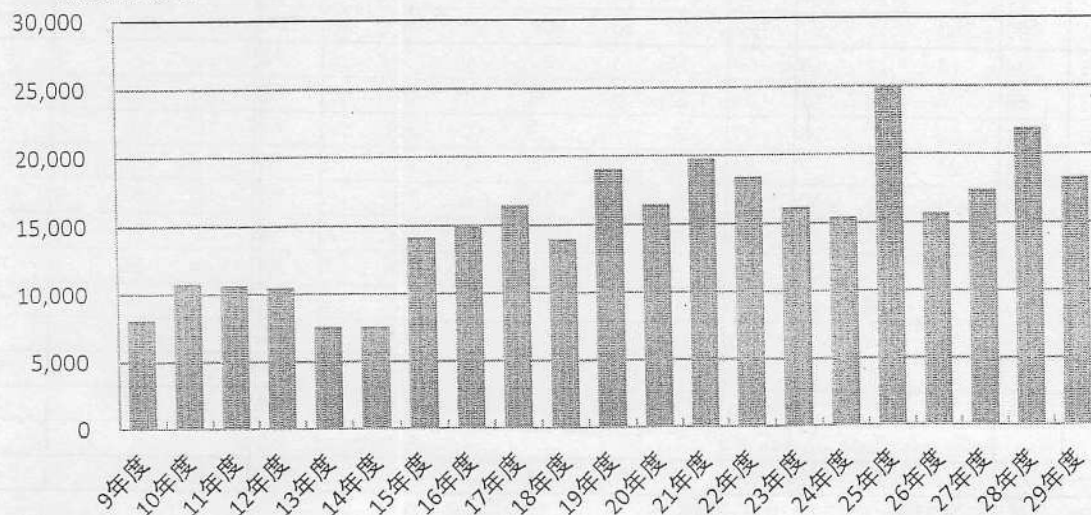
歴史資料館利用状況（展示来館者）

（平成30年2月末現在）

年度・年月	開館日数（日）	入館者数（人）	延人数（人）	1日平均（人）	内土日開館日数（日）	内土日入館者数（人）	土日平均（人）
9年度	280	8,113		29.0			
10年度	280	10,788		38.5			
11年度	282	10,649		37.8			
12年度	279	10,497		37.6			
13年度	284	7,511		26.4			
14年度	284	7,522		26.5			
15年度	287	14,155		49.3			
16年度	286	14,934		52.2			
17年度	284	16,452		57.9	99	5,924	59.8
18年度	284	13,968		49.2	99	5,674	57.3
19年度	286	19,045		66.6	98	8,704	88.8
20年度	285	16,459		57.8	98	6,464	66.0
21年度	285	19,739		69.3	101	8,746	86.6
22年度	287	18,388		64.1	97	7,684	79.2
23年度	289	16,162		55.9	102	7,086	69.5
24年度	289	15,427		53.4	98	6,448	65.8
25年度	288	25,050		87.0	97	10,841	111.8
26年度	289	15,711		54.4	97	5,824	60.0
27年度	288	17,398		60.4	100	7,126	71.3
28年度	286	21,957		76.8	101	9,948	98.5
29年度	259	18,249		70.5	90	7,842	87.1
29年4月	23	1,247	1,247	54.2	9	626	69.6
5月	23	1,571	2,818	68.3	8	696	87.0
6月	26	1,803	4,621	69.3	8	658	82.3
7月	24	1,646	6,267	68.6	10	936	93.6
8月	26	1,533	7,800	59.0	8	564	70.5
9月	23	1,485	9,285	64.6	8	710	88.8
10月	26	2,130	11,415	81.9	9	683	75.9
11月	22	1,875	13,290	85.2	8	848	106.0
12月	22	1,752	15,042	79.6	7	746	106.6
30年1月	21	1,509	16,551	71.9	8	741	92.6
2月	23	1,698	18,249	73.8	7	634	90.6
3月			18,249				
30年2月末	259	18249	0	71	90	7842	87

※ 前年度2月末時点 比較 1. 2%減（平成29年2月末 20,552人）

年度合計（人）



平成29年度歴史資料館利用状況（閲覧）

（平成30年2月末現在）

年度・年月	開館日数	閲覧者数（人）	居住地				内 容 別		
			市内	市外	不明	合計	図書	古文書	合計
22年度	185	1,283	833	440	10	1,283	901	382	1,283
23年度	187	1,189	770	413	6	1,189	767	422	1,189
24年度	191	1,095	733	352	10	1,095	700	395	1,095
25年度	191	939	601	333	5	939	700	239	939
26年度	192	987	616	367	4	987	700	287	987
27年度	255	1,228	731	484	13	1,228	913	315	1,228
28年度	286	1,440	851	574	15	1,440	1,021	419	1,440
29年4月	23	79	53	26	0	79	55	24	79
5月	23	93	57	35	1	93	75	18	93
6月	26	114	70	44	0	114	77	37	114
7月	24	97	53	42	2	97	68	29	97
8月	26	147	78	69	0	147	105	42	147
9月	23	97	47	50	0	97	69	28	97
10月	26	95	53	42	0	95	71	24	95
11月	22	119	91	28	0	119	77	42	119
12月	22	83	54	28	1	83	54	29	83
30年1月	21	74	41	33	0	74	53	21	74
2月	23	81	53	28	0	81	65	16	81
3月						0			0
29年2月末	259	1,079	650	425	4	1,079	769	310	1,079

※ 前年度2月末時点比較 16.8%減（平成29年2月末 1,297人）

平成29年度歴史資料館利用状況（相談）

（平成30年2月末現在）

年度・年月	開館日数	相談者数（人）	居住地				相談内容							相談方法			
			市内	市外	不明	合計	資料説明	家・人物	地名	習俗風土	歴史一般	その他	合計	電話	来館	郵送	合計
22年度	185	944	422	351	171	944	371	127	253	34	73	86	944	461	465	18	944
23年度	187	787	320	303	164	787	185	108	226	22	134	112	787	393	375	19	787
24年度	191	548	194	194	160	548	134	78	182	18	75	61	548	342	193	13	548
25年度	191	581	245	215	121	581	174	96	170	21	82	38	581	319	237	25	581
26年度	192	618	236	236	146	618	162	120	171	37	100	28	618	356	241	21	618
27年度	255	969	393	413	163	969	310	168	230	41	119	101	969	496	452	21	969
28年度	286	799	288	327	184	799	303	137	169	26	102	63	800	427	353	19	799
平成29年4月	23	54	16	20	18	54	15	10	20	0	4	5	54	33	21	0	54
5月	23	58	18	22	18	58	21	13	9	1	7	7	58	28	29	1	58
6月	26	47	22	17	8	47	20	7	7	0	10	3	47	26	19	2	47
7月	24	51	22	22	7	51	16	11	5	7	7	5	51	24	26	1	51
8月	26	71	31	28	12	71	16	12	18	6	13	6	71	35	33	3	71
9月	23	53	17	18	18	53	12	8	16	1	12	4	53	27	24	2	53
10月	26	74	29	21	24	74	19	7	18	3	20	7	74	44	29	1	74
11月	22	51	21	16	14	51	15	7	11	2	13	3	51	31	19	1	51
12月	22	50	21	16	13	50	8	9	13	1	18	1	50	29	21	0	50
平成30年1月	21	55	26	17	12	55	20	9	12	1	8	5	55	30	23	2	55
2月	23	66	31	21	14	66	25	12	12	2	11	4	66	39	25	2	66
3月						0							0				0
30年2月末	259	630	254	218	158	630	187	105	141	24	123	50	630	346	269	15	630

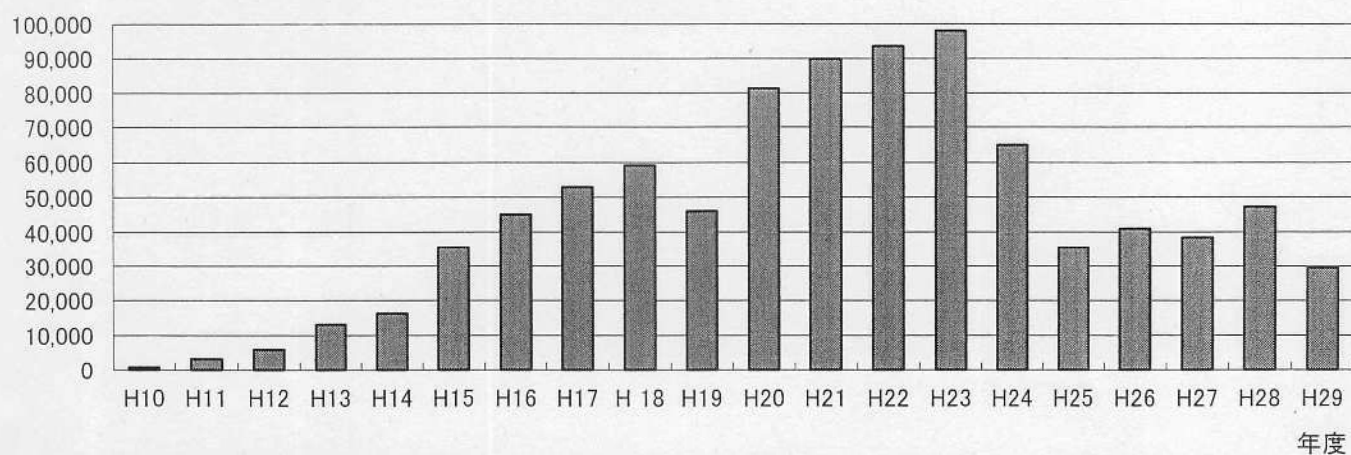
※ 前年度2月末時点 比較13.82%減（平成29年2月末 731人）

歴史資料館 ホームページアクセス数 年度推移 (平成10年10月15日開設)

年度	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
4月		89	296	788	1,314	3,251	3,248	4,459	6,273	4,387	2,796	10,051	7,103	9,164	2,913	2,920	2,940	3,663	4,081	3,352
5月		179	340	943	1,586	3,204	3,437	6,947	5,917	4,571	3,289	6,670	9,488	9,407	3,525	3,310	2,810	3,302	4,731	3,340
6月		278	294	1,091	1,374	2,543	3,525	4,599	5,513	4,502	2,997	7,781	11,283	9,237	3,300	2,919	2,923	2,876	4,019	3,360
7月		288	441	1,147	1,478	2,811	4,171	4,354	5,619	4,572	8,541	9,144	7,544	8,242	5,193	3,452	3,276	3,094	4,517	2,866
8月		237	552	1,236	1,614	2,883	4,536	5,005	5,062	4,972	8,123	6,356	7,601	8,263	5,622	4,431	4,396	3,177	4,558	2,798
9月		279	379	981	1,406	2,702	3,894	3,896	4,282	4,567	7,871	8,682	6,883	8,389	5,934	3,215	3,418	3,579	4,151	2,398
10月	152	322	615	1,287	1,440	3,062	3,917	4,312	4,682	5,042	7,894	6,501	6,655	6,451	6,878	2,886	3,407	3,508	3,819	2,350
11月	168	358	417	1,104	1,170	2,783	3,775	3,812	4,652	4,804	7,776	8,372	8,171	8,376	6,082	2,547	3,391	3,425	3,945	2,569
12月	213	304	508	928	1,108	2,616	3,216	3,274	3,670	1,090	8,317	7,179	6,444	7,870	6,109	2,207	3,001	2,859	3,282	2,186
1月	86	389	650	1,336	1,385	3,532	3,978	4,288	4,900	1,883	7,738	7,176	7,766	7,800	7,474	2,450	3,790	2,735	3,998	2,436
2月	104	223	612	1,169	1,298	3,087	3,632	3,725	4,442	2,601	6,903	7,120	7,197	8,166	7,064	2,421	3,560	2,765	2,999	1,892
3月	122	251	706	1,138	1,213	3,131	3,672	4,231	4,210	2,996	9,131	4,848	7,430	6,721	4,782	2,752	4,047	3,441	3,131	
計	845	3,197	5,810	13,148	16,386	35,605	45,001	52,902	59,222	45,987	81,376	89,880	93,565	98,086	64,876	35,510	40,959	38,121	47,231	29,547
月平均	141	266	484	1,096	1,366	2,967	3,750	4,409	4,935	3,832	6,781	7,490	7,797	8,174	5,406	2,959	3,413	3,202	3,936	2,686
前年比		1.892	1.817	2.263	1.246	2.173	1.264	1.176	1.119	0.777	1.770	1.105	1.041	1.048	0.661	0.547	1.153	0.938	1.229	

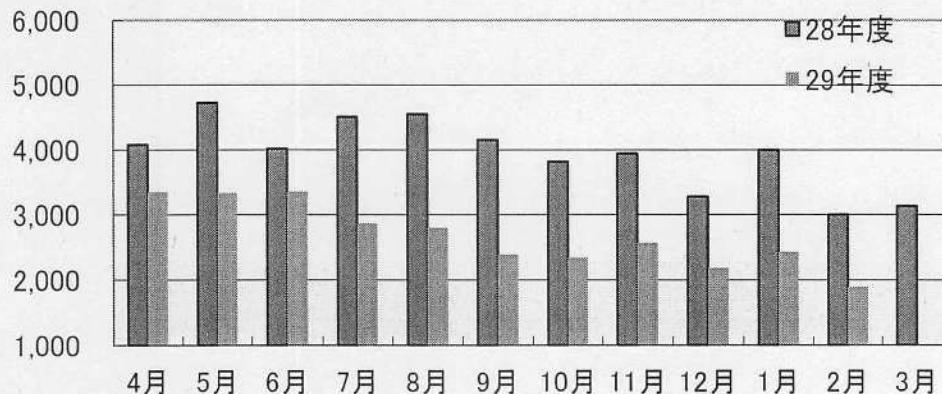
アクセス数(件)

歴史資料館ホームページアクセス数年度推移



歴史資料館ホームページ月別アクセス数(平成28・29年度)

アクセス数



(注)平成24年7月に当館HPの階層変更を行った後、25年3月に本市HP全体の再構成が行われたため、23年度まではトップページ経由のページビュー数、24年度はグルーptップページ(8項目)、25年度以降は広報担当集約数値のトップページのページビュー数の合計としている。

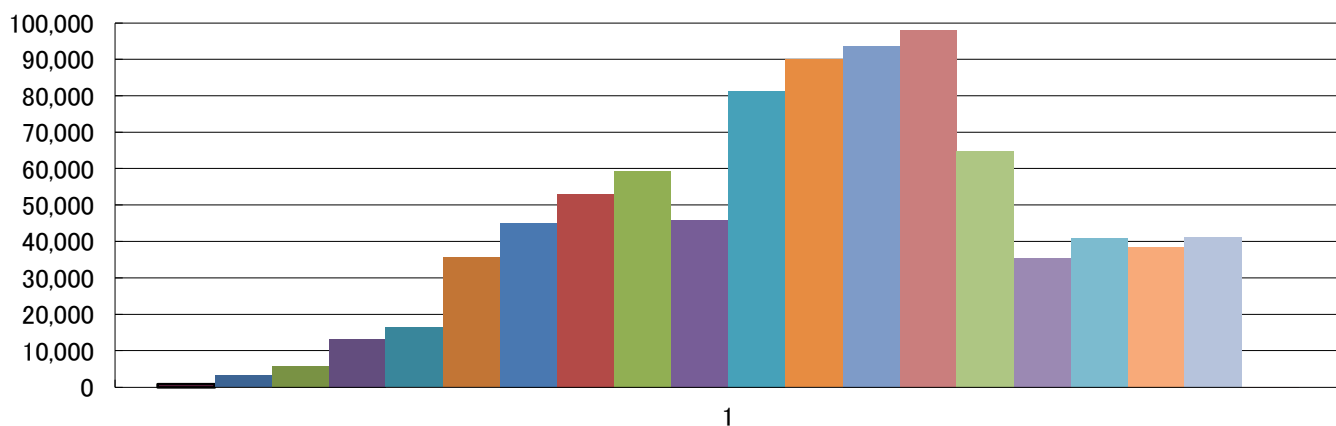
歴史資料館 ホームページアクセス数 年度推移 (平成10年10月15日開設)

(～H23:トップページ, H24～:グループトップページ合計)

年度	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H 18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28
4月		89	296	788	1,314	3,251	3,248	4,459	6,273	4,387	2,796	10,051	7,103	9,164	2,913	2,920	2,940	3,663	4,081
5月		179	340	943	1,586	3,204	3,437	6,947	5,917	4,571	3,289	6,670	9,488	9,407	3,525	3,310	2,810	3,302	4,731
6月		278	294	1,091	1,374	2,543	3,525	4,599	5,513	4,502	2,997	7,781	11,283	9,237	3,300	2,919	2,923	2,876	4,019
7月		288	441	1,147	1,478	2,811	4,171	4,354	5,619	4,572	8,541	9,144	7,544	8,242	5,193	3,452	3,276	3,094	4,517
8月		237	552	1,236	1,614	2,883	4,536	5,005	5,062	4,972	8,123	6,356	7,601	8,263	5,622	4,431	4,396	3,177	4,558
9月		279	379	981	1,406	2,702	3,894	3,896	4,282	4,567	7,871	8,682	6,883	8,389	5,934	3,215	3,418	3,579	4,151
10月	152	322	615	1,287	1,440	3,062	3,917	4,312	4,682	5,042	7,894	6,501	6,655	6,451	6,878	2,886	3,407	3,508	3,819
11月	168	358	417	1,104	1,170	2,783	3,775	3,812	4,652	4,804	7,776	8,372	8,171	8,376	6,082	2,547	3,391	3,425	3,945
12月	213	304	508	928	1,108	2,616	3,216	3,274	3,670	1,090	8,317	7,179	6,444	7,870	6,109	2,207	3,001	2,859	3,282
1月	86	389	650	1,336	1,385	3,532	3,978	4,288	4,900	1,883	7,738	7,176	7,766	7,800	7,474	2,450	3,790	2,735	3,998
2月	104	223	612	1,169	1,298	3,087	3,632	3,725	4,442	2,601	6,903	7,120	7,197	8,166	7,064	2,421	3,560	2,765	
3月	122	251	706	1,138	1,213	3,131	3,672	4,231	4,210	2,996	9,131	4,848	7,430	6,721	4,782	2,752	4,047	3,441	
計	845	3,197	5,810	13,148	16,386	35,605	45,001	52,902	59,222	45,987	81,376	89,880	93,565	98,086	64,876	35,510	40,959	38,424	41,101
月平均	141	266	484	1,096	1,366	2,967	3,750	4,409	4,935	3,832	6,781	7,490	7,797	8,174	5,406	2,959	3,413	3,202	4,110
前年比		1.892	1.817	2.263	1.246	2.173	1.264	1.176	1.119	0.777	1.770	1.105	1.041	1.048	0.661	0.547	1.153	0.938	

アクセス数(件)

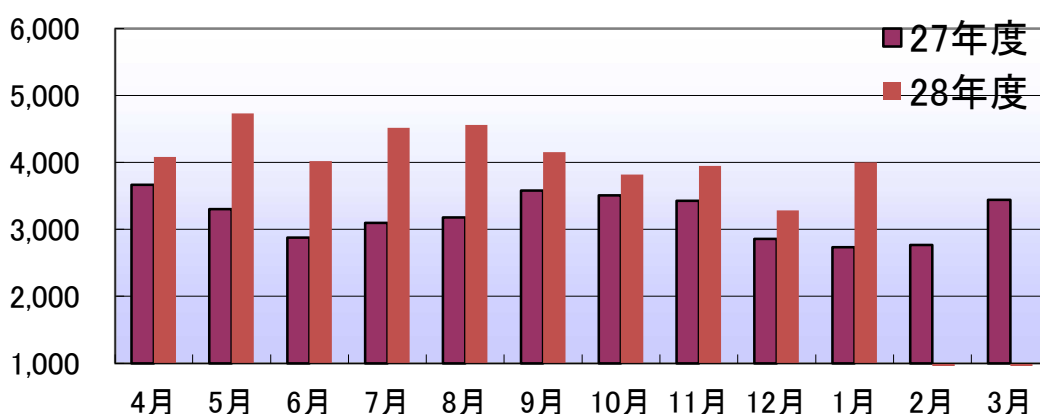
歴史資料館ホームページアクセス数年度推移



年度

歴史資料館ホームページ月別アクセス数(平成27・28年度)

アクセス数



(注)平成24年7月に当館HPの階層変更を行った後、25年3月に本市HP全体の再構成が行われたため、23年度まではトップページ経由のページビュー数、24年度はグループトップページ(8項目)、25年度以降は広報担当集約数値のトップページのページビュー数の合計としている。

平成30年度事業計画

1 展示

(1) 特別展 叢書京都の史料刊行記念 「久多荘 - 中世村落のすがた -」

会期 平成30年4月20日(金)～6月26日(火)

内容 左京区の最北端に位置する「久多」に残されてきた、鎌倉時代以降の村落行政や生活史などに関する古文書から、中世の村落形態と人びとの生活文化を紹介します。

(2) 明治の面影 - 京の写真師たち - 中川コレクション カメラ展 (仮称)

会期 平成30年6月～9月

内容 長崎、横浜と並んで理化学の先進地域であった京都の幕末から明治期にかけての草創期の写真技術、写真師に焦点を当て、写された京都の作品を通して明治の息遣いを伝えます。

(3) 企画展「文化財展」 (仮称)

会期 平成30年9月～10月

内容 明治期の文化財をはじめとする京都市の新指定登録文化財を紹介し、広く市民に文化財についての普及啓発を図ります。

(4) 特別展「京都をよみがえらせた名望家たち」 (仮称)

会期 平成30年11月～平成31年2月

内容 近代的な都市へ脱皮しようとした明治期の京都市政と、それを支えた市民の活動を紹介します。京都市指定文化財「京都市参事会文書」の修復・公開も併せて進めます。

(5) 企画展「和本のひろがり」 (仮称)

会期 平成31年2月～平成31年4月

内容 文字の読み書きができる階層が拡大し、印刷技術の向上で書物の出版が盛んになった江戸時代に、学問や教養だけではなく実用、娯楽、趣味など、読者の需要に応じて多様化した書物をめぐる諸相を紹介します。

(5) スポット展示

館蔵品の中から近年収集したもの、指定品・登録品など史料的価値の高いもの、時宜に適したもの、市民の関心の高いものなどを選んで、通常の展示とは異なる視点で紹介していきます。

・明治の絵はがき、立入家寄贈資料等

2 講座

(1) 歴史講座

ア 「叢書京都の史料 久多荘 - 中世村落のすがた -」刊行記念シンポジウム (仮称)

期日 平成30年6月 左京区役所

講師 野地秀俊

- イ 「明治の面影 - 京の写真師たち - 中川コレクション カメラ展」 (仮称)
 期日 平成 30 年 8 月 当館 1 階展示室
 講師 中川氏
- エ 「文化財展」 (仮称) ※文化財保護課と共同開催
 期日 平成 30 年 9 月 当館 1 階展示室
 講師 未定
- オ 「京都をよみがえらせた名望家たち」 (仮称)
 期日 平成 30 年 11 月 当館 1 階展示室
 講師 秋元せき
- カ 「和本の見方」 (仮称)
 期日 平成31年3月 当館 1 階展示室
 講師 松中 博

(2) 明治 150 年連続講座

明治期の京都で活躍され、近代京都の礎をつくられた人物にスポットを当て、明治期の京都のまちづくりの取組などを紹介します (7~8 回)。

(ア) 前期：激動の明治と京都の元勳 (仮称)

期日 平成 30 年 7 月~8 月

明治天皇、岩倉具視、三条実美、西郷隆盛、山縣有朋らを取り上げます。

(イ) 後期：明治京都の開拓者たち (仮称)

期日 平成 30 年 11 月~12 月

(3) 連続講座「古文書を楽しく読もう！」

ア 春期コース (5 月) 毎週木曜日・計 4 回

期日 平成 30 年 5 月~6 月

- ・江戸時代の京都ニュースを読む 13 時~14 時 30 分
- ・岩倉具視の書簡を読む 15 時~16 時 30 分

会場 同志社新島会館 講師：吉住、松中

イ 秋期コース (10 月) 毎週水曜日・計 4 回

期日 平成 30 年 10 月 (水)

- ・入門編 13 時~14 時 30 分
- ・応用編 15 時~16 時 30 分

会場 同志社新島会館 講師：歴史資料館員

(4) 夏休み親子歴史教室「京都五山の送り火行事」 (仮称)

期日 平成 30 年 8 月 16 日 (木) 場所 未定

講師 歴史資料館館員

対象 小学校 4・5・6 年生児童とその保護者

(5) 京都アスニー・アスニー山科協力講座

ア アスニー学びのフォーラム山科「女房装束による美の演出」

期日 平成 30 年 4 月 18 日 (水)

講師 吉住恭子

3 資料の調査・収集・整理・保存・研究

京都の歴史に関する研究センターとしての役割を担うため、大学等の関係機関と連携し、京都市域の歴史に関する古文書などの調査・収集に取り組みます。また、京都市指定文化財「京都市参事会文書」等の修復を進めるとともに、資料の整理・保存・研究を行います。

4 歴史的公文書の調査・指定

歴史的公文書の調査及び指定を行います。

5 資料の供用・普及

収集・撮影した古文書などの資料及び所蔵する図書の整理・公開を進めます。また市民の方からの歴史に関する相談に対応します。

6 「叢書 京都の史料」の編集

歴史資料館の古文書調査の成果をもとに、史料集の刊行を行います。平成 30 年度は、第 16 回配本に向け資料を整備します。

7 史料管理システムの整備

調査・収集した古文書に関する情報管理のため、これまでに収集し、調査・撮影した古文書の写真帳台帳及び古文書の解説などの情報を整備・更新します。

8 情報提供システム「フィールド・ミュージアム京都」の運営

京都市内にある歴史的資源の情報を、情報提供システム「フィールド・ミュージアム京都」として、インターネットで発信しています。項目の追加・修正を中心に、サイト運営を行います。

9 博物館実習生等の受入

京都市内の各大学からの要請を受け、博物館実習生を受け入れ、館員の指導による実習を実施します。また、中学生のチャレンジ体験も昨年に続き受け入れます。

- ・博物館実習 平成 30 年 8 月 21 日～25 日 担当：松中
- ・チャレンジ体験 平成 30 年 5 月及び 11 月

10 資料の活用等についての検討

収蔵資料活用のための整理とともに、収蔵スペースの狭隘化への対応として、一部資料の学校空き教室を活用した一時保管等を進めるとともに、施設のあり方についての検討を進めます。

京都市歴史資料館 歳入・歳出 予算・決算額 推移表

[歳出]

(単位：千円)

		30 年度		29 年度		28 年度		27 年度		26 年度	
		予 算	決 算	予 算	決 算	予 算	決 算	予 算	決 算	予 算	決 算
管理運営	小 計	21,555		18,191		22,558	18,568	16,147	14,352	15,584	14,344
	一般経費	14,555		14,991		15,758	13,851	14,347	12,902	14,784	13,550
	特別経費	7,000		3,200		6,800	4,717	1,800	1,450	800	794
	備 考	明治150年記念事業 「いま明治を考える プロジェクト」		鴨川・高瀬川地域の 歴史遺産継承・活用		岩倉具視関係資料の修 復, 鴨川・高瀬川地域 の歴史遺産継承・活用		ゲート設置 フィルム修復		フィルム修復	
						史料叢 書刊行	小 計	848	841	190	188
							一般経費	178	190	190	188
							特別経費	670	651	0	0
							備 考	印刷費			
						市政史 編さん		小 計		11,098	9,948
								一般経費		8,498	8,017
								特別経費		2,600	1,931
								備 考		印刷費	
計		21,555		18,191		22,558	18,568	16,995	15,193	26,872	24,480

[歳入] (決算額)

		30 年度		29 年度		28 年度		27 年度		26 年度	
		予 算	決 算	予 算	決 算	予 算	決 算	予 算	決 算	予 算	決 算
刊行書籍販売		502		502		502	461	924	730	1,012	649
資料コピー料金		300		300		300	349	300	246	300	272
古文書講座受講料		384		384	368	384	330	384	346	288	366
補助金等		3,500		3,200		3,800	1,733	-	-	-	-
		明治150年記念事業		鴨川・高瀬川地域の 歴史遺産継承・活用		鴨川・高瀬川地域の 歴史遺産継承・活用					
計		4,686	0	4,386	368	4,986	2,873	1,608	1,322	1,600	1,287

平成28年度 京都市歴史資料館評議委員会議 議事録

- 1 日 時 平成29年3月7日(火) 午後3時～4時50分
- 2 会 場 同志社 新島会館 別館2階 貴賓室
- 3 出席者 評議委員：上原恵美，鈴木久男，龍村光峯，田端泰子，野口実，藤瀬祥子，平井和
歴史資料館：井上館長，宮崎次長，村上担当係長 他
- 4 欠席者 なし
- 5 傍聴者 なし
- 6 議事運営

(1) 開会

京都市市民参加推進条例第7条により本会議及び議事録等について公開することを説明。

(2) 開会あいさつ

(3) 出席委員・当館出席者紹介

(4) 平成28年度事業報告説明(資料2参照)

平成28年度の展示事業について、京都文化博物館特別展「実相院門跡展－幽境の名刹」の共催での実施，特別展 叢書京都の史料刊行記念「内裏図の世界－京都御所と公家町－」，「よみがえる伏見城」(京都市考古資料館共催)，「鴨川・高瀬川流域の人と暮らし－今村家文書の世界－」，企画展 旧三井家下鴨別邸修復公開記念「三井家と京都－三井別家の文化－」，テーマ展「絵図のまなざし」及び「京・地域の暮らし2 大原－生活と信仰－」の開催について報告。今年度から新たに時宜に適した題材を紹介しているスポット展示について，「京都市参事会文書」，「祇園祭の『ねりもの』」，「お千度参りと安政コレラ」，「若冲が生まれた町－中魚屋町の古文書－」及び「大坂の陣と真田幸村」の開催について報告。展示にあわせた歴史講座「よみがえる伏見城」，「絵図，それぞれの使いみち」，連続講座「東山区今村家の歴史遺産」の開催，今年度から春期と秋期に分け，入門編と基礎編ないし中級編を設け実施した連続講座「古文書を楽しく読もう！」，「京のまちをタイムトラベル」と題し，昔の地図を見ながら作業をしてもらう形で実施した夏休み親子歴史教室について報告。

テーマ展「京・地域の暮らし2 大原」の関連事業として開催予定のシンポジウム，グルメ紀行及びフィールドワークについて報告。

京都アスニー・アスニー山科との協力講座「学びのフォーラムやましな」，「アスニーセミナー」及び「ゴールデンエイジアアカデミー」への出講，今村家文書に関連して柳原銀行記念資料館との連携による展示・シンポジウム，上京区役所との連携による京都御苑に関する講座，環境省京都御苑管理事務所との連携による閑院宮邸跡公開10周年記念講演の実施について報告。

また，1948年発生のジフテリア予防接種被害事件の資料の歴史的公文書としての保管について報告。

資料の供用・普及について所蔵資料・図書の公開，歴史相談の実施，「叢書 京都の史料 第15回配本『久多庄文書』」の編集作業の進捗，『京都市歴史資料館紀要』第27号の年度内刊行予定とともに，史料管理システムや情報提供システム「フィールドミュージアム京都」の整備，「いしぶみリスト」の京都市オープンデータポータルサイトでの公開，博物館実習生の受入について報告。

施設利用状況について，来館者数は2月末時点で，昨年の同時期と比べ約33パーセント増加し2万人を超え，年度末には2万2千人位と想定していること，資料の閲覧は昨年度より約15パーセント増，歴

史相談は約 18 パーセント減、ホームページのアクセス状況は、閲覧数としては少しずつ増える傾向にあり、今年度はすでに昨年の数を上回っていることを報告。

(5) 質疑

[評議委員] 来館者数は平成 25 年度が多く、次いで今年度も 2 万人を超えている。どういう理由によるのか。

[資料館] 平成 25 年度は、NHK 大河ドラマ「八重の桜」の影響で新島旧邸を訪れた方が来館されたためと考えられる。今年度は、連携企画の開催やスポット展示の実施、京都御所の通年公開に伴う界限を訪れる方の増加等が要因と考えられる。

[評議委員] 周辺の状況の変化とともに来館者数が伸びるのはよいこと。御所に資料館の案内があり、来館者を誘導できるとなおい。

[資料館] 京都御苑管理事務所とも連携企画として講演を行っている。

[評議委員] 京都文化博物館もあり、連携によって歴史資料館も注目されるとよい。

[資料館] 歴史講座「よみがえる伏見城」は伏見区役所と連携して広報を行い、280 名を超える応募があり、区役所に大きな会場を使用させていただいた。歴史資料館の活動を知っていただく良い機会となった。

[評議委員] どの講座も参加者が多く、それだけ熱心に学びたい方がいらっしゃるということ。

[評議委員] 入館者が 30 パーセント増えたのはすごいことだと思うが、どの年齢層が多いのか。

[資料館] 窓口での印象では、年齢層は高めと思われる。

[評議委員] 地域の歴史について、その地域で話をするのはとても大事。大原のように地域と一緒に活動するのもよいこと。地域の歴史の掘り起こしによって関心が高まれば来館者も増えると思う。大原のグルメ紀行について食に関係のある学校への呼びかけは行っているか。

[資料館] そうした学校への広報は特に行っていない。広報については、従来の広報手段だけでなく、鴨川・高瀬川の連続講座では、東山区役所と連携して関係学区の会長への説明など参加者増に努めている。

[評議委員] 今村家の場合は地域の方も関心が高いと思う。「三井家と京都」の展示でも NHK のドラマ「あさがきた」関連の企画として打ち出していくこともできたかと思う。

[資料館] 今年度から始めたスポット展示も活用しながら、時宜に適した企画を行っていきたいと考えている。

[評議委員] 来館者が平成 25 年度に 2 万 5 千人、平成 28 年度 2 万人ということだが、来年度もこの数字を維持できるような工夫を考えているか。

[資料館] 来年度は大政奉還 150 年の記念事業として展示の広報ができると思う。ホームページについては、国の文化遺産オンラインにも再度登録し、大原の展示を閲覧できるようにした。他機関等とも連携し情報を発信していく。市のオープンデータを通した御意見もいただいている。

[評議委員] 御所の通年公開、迎賓館の公開も始まっている。御所や迎賓館を訪れた方に歴史資料館へ足を運んでもらえるよう、館からガイドを派遣し双方を案内するなどのしくみを考えていただきたい。

歴彩館が 4 月から本格オープンするが、歴史資料館の資料を歴彩館で紹介したり、歴彩館の資料を歴史資料館で展示するなど連携して欲しい。文化庁の京都移転を踏まえて、オール京都

の視点をしっかりと持って欲しい。

[資料館] 上京区というレベルでは行政推進会議という組織があり歴史資料館、考古資料館、御苑管理事務所も加わり情報交換している。来館してもらうことについて連携を進めていきたい。歴彩館からは、来年度の展示事業で所蔵資料を借用する予定であり、文化博物館とも連携を考えている。見える形でなかなか進められていない部分もあるが、歴史資料館の役割を打ち出していく必要があると考えている。

[評議委員] 夏休み親子歴史教室について、評議委員会での指摘も踏まえ内容を変更したというが、「大文字」を見ながら子どもと一緒にその歴史を学ぶ良い機会なので、継続してほしい。また、次世代の歴史好きを増やしていこうとするなら、募集定員が 50 名では心もとないと思う。

[資料館] 来年度の夏休み親子歴史教室では地蔵盆の歴史的な背景を学んでもらう予定。今年度は地図をもとに学習してもらったが、小学校 4 年生から 6 年生までを対象としているので、テーマを三つくらい用意し順番にやっていけば、3 年間継続して参加することもできる。どういうふうにすれば子どもたちに歴史に関心を持ってもらえるのかを考え進めていきたい。

[評議委員] 地蔵盆を親子歴史教室で扱う場合どういう方法を考えているか。

[資料館] 京都の場合、地蔵盆は宗教的な行事という側面よりも、歴史的なもので生活の中に根づいた行事であると理解している。歴史資料館で地蔵盆を行うのではなく、壬生寺等で数珠繰りを体験してもらうこと等を考えている。図書のみで学ぶのではなく、今年度の地図による作業のように、実際に体験してもらうことで、子どもたちに歴史に関心をもってもらえると考えている。

(6) 平成 29 年度事業計画説明（資料 3 参照）

展示については、企画展として江戸時代後半に「休み山」となった祇園祭の鷹山の復興に向けた取り組みを支援する歴彩館との連携展示「鷹山ふたび - 祇園祭鷹山復興支援展 -」，テーマ展として『燈心文庫』から室町時代の資料を展示する「燈心文庫にみる室町時代の諸相」（仮称），二条城を中心として行われる大政奉還 150 年記念事業の一環として、重要文化財「岩倉具視関係資料」を活用した特別展「岩倉具視の生きた時代」，大塚コレクションの追加寄贈分を中心としたテーマ展「江戸時代の京都ニュース - 続・大塚コレクション展 -」を行うことを報告。スポット展示では、市政史、桂女、福王子神社の狛犬などの紹介予定について報告。

展示に関連する歴史講座については「祇園祭山鉦の復興物語」，「燈心文庫にみる室町京都とその周縁」，「岩倉具視と明治国家の出発」，「江戸時代の京都ニュース」（仮称）及び鴨川・高瀬川地域の歴史遺産継承・活用事業としてシンポジウム，フィールドワークを行うことを報告。

連続講座「古文書を楽しく読もう！」は 28 年度と同様，春期と秋期に，入門編と応用編に分け，内容をわかりやすいよう表すタイトルを付けて実施すること，夏休み親子歴史教室は，「お地蔵さんと地蔵盆 - まちかどの仏たち -」として体験を交えた講座を行うこと，京都アスニー・アスニー山科との協力講座として「アスニー京都学講座」，「学びのフォーラムやましな」に出講することを説明。

資料の供用・普及について，「叢書 京都の史料」第 15 回配本「久多荘文書」の刊行，例年の博物館実習に加え，インターンシップの受け入れについて報告。

また，資料の活用・整理について，歴史資料館の収蔵庫の状況がかなり逼迫していることから，収蔵場所の確保等について，来年度の評議委員会には説明できるよう検討して行くことを報告。

(7) 質疑応答

- [評議委員] 映像展示は更新されているのか。
- [資料館] 映像展示を増やすことに、なかなか予算をつぎ込めない状況にある。
- [評議委員] そろそろ予算化して新しくしないと、30年前の状態のままではどうかと思う。
- 市史・地域史の編纂は更新していく必要がある。事業として立ち上げるのは大変だと思うが、歴史資料館が主体となって更新を進めてもらいたい。市史が編纂されてからずいぶんになるが、この間歴史に対する見方、全体史の中での京都の位置づけも変化しているので、常に更新していかないと自治体史の編纂はできないことを、京都市が率先垂範して示さないといけないと思うので、ぜひ働きかけて欲しい。
- [資料館] 今できるのは所蔵資料を整理し、さらに資料を収集し将来に備えることなので、調査・研究を進めつつ、要望を伝えていきたい。
- [評議委員] 予算については大変だと思うが、収蔵庫の課題も、評議委員会議など外部の強い意見などを反映していくことも大切だと思う。そういう利用をされてはいいかがか。
- [資料館] そのように活用させていただきたい。予算については鴨川・高瀬川の事業のように、国からの補助を活用することについても検討を進めたい。
- [評議委員] 市史の編纂は何年かかけたらできるというものではない。あれだけのレベルの京都市史がある以上、それを超えるものを編纂しようとするとな日常的にどこかの機関が研究を進めていかないといけない。その役割は歴史資料館だと思うので、予算要求ごとに言うておかななくてはならない。収蔵庫も近隣の小学校に空いたスペースがあれば活用するなど、早く言うておかないとだめだ。資料は増えていく一方であり、いつもいつも要求をするという形でやってもらいたい。
- [資料館] 歴史資料館は昭和 57 年に開館し、30 年以上が経過しており、空調など施設面でもいろいろと問題がある。引き続き伝えていきたい。
- [評議委員] 文化庁が京都に移転することが決まり、京都府は歴彩館という大きな施設を設けたが、京都市も考古資料館、歴史資料館が手狭な中で歴史資料・民俗資料といった歴史遺産をどう活用するのか、市民にどう情報提供するのかを考えると、市の総合歴史館のような施設が必要だと思う。文化市民局で、京都市が持っている資料をもとに今後どういう博物館にしていくかという目標はあるのか。
- [資料館] 歴史資料館、考古資料館をどうするか、京都に来られる方がここに行けば京都の歴史がわかるという施設ができないかということは、当館、各館、文化財保護課、文化市民局としても、どこに場所を求めるか等も含めて検討しているが、報告させてもらうところまではきていない。また、学校施設の活用は地元としての御意見もあり、簡単には進まない。
- [評議委員] 元の府立総合資料館の跡地の利用はどうなるのか。
- [資料館] 府が考え方をまとめられるようである。
- [評議委員] 鴨川・高瀬川地域について地域の再開発プロジェクトが動き出していると思うが、地域活性化に関連させてとか、市立芸大や高校が移転するという周辺地区が大きく変わろうとしている中で、歴史資料の公開場所を求めていく必要があると思う。文化庁移転にもかかわらず、市の資料をどこで見ればいいのかということになりかねないので、大きく京都市のプロジェクトとして提言していけるようにし欲しい。京都市史についても、歴史資料館だけではなく、市史の編纂、資料の公開をセットでできるようにやっていただきたい。

[資料館] 京都市は平成 30 年代に市庁舎の改築，市立芸大の移転など大きく動く。そういう状況の中で何ができるのかを考えるようにと言っていたと思う。そうしたことを考えていくのは大切だと思う。一方で所蔵しているものを情報・データで見えていただいて，現物はこういう場所に行けば見ていただけますという方法をとることも考える必要があると思う。事業計画の「資料の活用・整理についての検討」では，現在ある施設の活用や今言っていたこと等について考えていくことになる。

[評議委員] すでに文化庁移転や市立大学移転，市役所の新庁舎等が動き出している段階で，考えるというのでは遅い。

[資料館] 今は，考えるとしか言えない

[評議委員] この話は京都市行政全体の中で，大きなプロジェクトが動く中に位置づけてもらうようにしないと，歴史資料館レベルで言ってもなかなか動かない。

[資料館] 歴史資料館だけでなく考古資料館，文化市民局，文化財保護課も当然課題と考えている。全体としてもっと大きなこととどう結びつけるかを含めて進めていかないといけないと考えている。

[評議委員] 評議委員会議としても，是非にやって欲しいという意向を持っていることが確認できればと思う。

[評議委員] それを具体的に文書にして文化市民局長に提出する，あるいは評議委員会議として資料が満杯で更新もできないという現状を文書にして訴えていく必要があると思う。

[資料館] 現状をいかに伝えていくかということについては，明確にできているとはなかなか申し上げられないが，事業計画の中にこれまでになかった「資料の活用・整理についての検討」を加えたのは，決意を示したものだ。

[評議委員] 行政がなかなか動かないのは身をもって知っているが，その際にエールを送ってくれるのは理事会であり評議委員会議。簡単ではないと思うが，毎年局に対して訴えていけば改善されると思う。ぜひ委員が意見を言っていることを伝えていくようお願いする。紙資料を適切に保存するには，温湿度の管理等の空調設備が必要。保管先がどこでもいいというわけにはいかない。

[資料館] 原資料はもちろん館で保管するしかない。

[評議委員] 動画は新調して欲しいとずっと思っている。京都市がこれまで製作しているものを編集するといった方法もある。予算的に難しいと思うが，負けないでやっていただきたい。

(8) 歴史資料館運営予算について（資料 4 参照）

平成 29 年度の予算（一般経費）は平成 28 年度より少し減少しているが，施設の管理，展示についてはほぼ同額を確保していること，特別経費については「鴨川・高瀬川地域の歴史遺産継承・活用事業」に国の助成をいただくこと，史料叢書刊行は管理運営に一本化していることを説明。

(9) 質疑応答

[評議委員] 平成 29 年度の 320 万円の特別経費は国庫補助金か。

[資料館] 鴨川・高瀬川地域の歴史遺産継承・活用事業の助成です。

[評議委員] 平成 28 年度の 680 万円も全額国庫補助金か。

[資料館] 680 万円のうち 380 万円が国からの助成，残りの 300 万円は岩倉具視関係資料の修復に係る経費。管理運営とは違うということでここに記している。

[評議委員] 文化庁の補助金は、この歳入・歳出の表の中ではわかりにくい。国からの補助金をいくらもらっているという記載が必要。また、来年度の大政奉還 150 周年記念事業に関わって、京都市からの費用助成についても説明いただきたい。

[資料館] 平成 29 年度の特別経費としては、「鴨川・高瀬川」で助成の申請をしている金額のみ。大政奉還 150 周年記念事業では岩倉具視関係資料を展示しますが、一般経費の中で通常の事業として展示を行う。広報については連携していくことになっている。国の助成の表記については「鴨川・高瀬川」が平成 28 年度と 29 年度に計上されているが、これまでこうした取り組みがなかったためにこうした表になっている。今後わかりやすい示し方を工夫していきたい。

[評議委員] 特別事業を一般経費でやらないといけないということでは、企画内容の充実が図れないし、資料の充実も図れないことにつながるので、特別事業については京都市の文化的事業に関連させて予算を要求していくべき。

メディア関係から資料の利用についても使用料を徴収するべきではないか。そうした経営努力を予算面でもわかるよう工夫すべき。

[資料館] 要求はしたが、認められなかった。予算を充実させたい思いはあるので、工夫していきたい。

[評議委員] 現在、資料の利用料、貸出料は決まっているのか。

[資料館] 無料です。

[評議委員] そうした規定がなく、入館料も無料だから料金は取れない。

[評議委員] 資料の貸し出しに関する時間や労力など経費の負担も生じると思うので、たとえば国や市の指定品については、京都市美術館の事例も参考に、負担をお願いすることも必要になってくるかと思う。

[資料館] 研究していきたい。

[評議委員] 有料になると研究には困る。

[資料館] 有料にすれば歴史資料館には取材しなくなる。取材しなくなると広報の機会を失うことになるので、そこをどう考えるか。「洛中洛外図屏風」上杉本などは、もし無料ということになれば利用が殺到するので、その事務手続として利用料を徴収しているが、特殊な事例である。

[評議委員] 公共のものは無料というのが基本だと思う。

[資料館] 利用してもらったものをデジタルデータで提供してもらい、市民に還元するという方策も探していきたい。

[評議委員] すべてに費用負担を求めるということではなく、貴重なものについては保管の費用や取り扱いに要する手間もかかるので、学術目的での利用は無料で、メディアの利用には手数料を徴収するなど、硬軟取り合わせた資料の保存・活用があってもいいと思う。

[資料館] まだいろいろと御意見はあると思いますが、時間も参りましたので以上をもちまして区切りとさせていただきます。ありがとうございます。

(10) 閉会挨拶

本日は長時間ありがとうございました。京都市歴史資料館は非常に小さな館ではありますが、京都にとっては大切な施設です。また、日本にとっても同様な意味を持つものだと思って、私ども館員も日々頑張っております。今後ともよろしくご指導いただくことをお願い申し上げます。ありがとうございました。